

かつては「みちのくの小京都」とさえ称されていた中津川界隈の景観。いつの間にか川幅が狭くなり、河川敷には柳や葦が繁茂してしまいました。

「見た目が悪いし、洪水で橋桁がダム化する」「行政で切ってくれたら後は地域で手入れできるのに」。このような町内会での雑談がきっかけとなり、地域の有志、行政（国交省、盛岡市）、NPO（山仕事くらぶ、緑の相談室）の支援を得て一部の区域を伐採しました。

景観からの地域づくり（景観点検）事業として、この活動の報告書を作成し、地域の小中学校、川沿いの住民、杜陵地区役員に配布し、景観改善の周知活動を行いました。今後も、賛同者を得ながら「地域で景観を維持できる仕組みづくり」を進めていきます。



点検実施地域：盛岡市中津川にかかる中の橋から毘沙門橋までの河川敷と中洲



趣のあった昭和の景観（下の橋と岩山）



京都市渡月橋の景観



両岸で90カ所にもおよぶ柳の群生



杜陵小前からは川面も公園もよく見えません



当初、3月下旬の伐採を予定もコロナで6月に延期。葉は青々と茂り作業量が格段に増えた。令和4年6月26日（日）、右岸（公園側）は伐採完了も左岸はほぼ手付かず。石垣はきれいになりました。一般22名、行政、NPOも含めて総勢48名が参加。

令和4年11月15日（火）、杜陵小学校5年生に報告書を配布。報告書以外の内容も加えて説明。11月下旬に予定の第二回目のボランティアに数名が手をあげた。

今後、左岸（杜陵小側）に残った柳を伐採の予定。ただし、中ノ橋～毘沙門橋の区間は繁茂数が多いので、数回の伐採を要する可能性がある。将来的には「毘沙門橋～下の橋」「下の橋～川原橋」も伐採したいが、そのためにも『だんご石プロジェクト活動報告書』を活用して地域の賛同者を増やしていきたい。

（※景観からの地域づくり（景観点検）事業としての実施は、『だんご石プロジェクト活動報告書』の作成及び周知活動のみ）